



★一面コラムの読み方★

前号で紹介した「一面コラム」。この文章量についてだが、1行あたり10文字から12文字。行数にして50行から60行程度。文字数に直すと約600文字程度ということだ。

レベル1：「読み」の習慣づくり

まずは、「ざっと」読む。大まかに「どんな内容なのか」をつかむ。しかも読むときは声に出して。一回声に出して読むことで目で3回以上読むことと同じ位頭に残ることになる。『時間がな〜い』『めんどくさ〜い』、そんな中学生ほど声に出して読むのである。一度読んだらちょっと本文の内容から離れてみて、文章全体の「作り」をみる。『段落はいくつあるかな?』『ひとつの段落にはいくつの文があるのかな』。一面コラムの場合は、段落は多くて6から8程度である。段落の区切りに「三角マーク」などが入っているので、それを数えることですぐわかるはず。また1段落中の「文」は2文から4文で構成されている。これは句読点の「。」の数を数えればよい。これは小学生でも知っている「読解力」の基本である。慣れてくると一目でわかるようになる。

文章の構造（作り）がわかったら、もう一度「どんな内容が書かれているか」を声に出して読むといい。

レベル2：「読み」の思い出し

「一面コラムを読む習慣」がついてきたら少しレベルアップ。ちょっとのすき間で内容を思い出してみるのである。風呂やトイレに入っているときなど、少しでも、なんとなくでも思い出せば「よし」である。すっかり忘れているときはもう一度読みなおす。すると最初の2〜3行で『あ〜そうやった』とコラムの内容が復活するのである。

それをくり返していると以前に比べニュースなどの内容も「よりわかる」ようになっているはずである。

レベル3：「読みを深める」

習慣が身についてきたら、ここからが修行の道である。一面コラムをざっと読み、文章の「作り」をつかんだら、各段落ごとに、その内容を「要約」していくのだ。つまり、ひとつの段落にある2〜3文の内容を重要な部分に注目しながら20〜30文字程度にまとめてみるとよい。各段落の「要約」ができたなら、その「要約文」を読み返し、さらに「要約文」全体を20〜30文字にまとめる。すると最終的に「コラムの作者は〇〇〇について〇〇〇と考えている」という「論旨」が抜き出せるようになる。これが読解力養成に大いに役立つのである。

今年度、読解力をみんなで鍛えてみませんか？

